

全学年 単元名「海風をうけて・連凧あげ」(4時間)

1 単元設定の理由

毎年7月の種差海岸観光まつり会場において、凧あげ大会を実施してきた。53年の歴史がある。3年理科「風のはたらき」において、風の強さと風車の回り方の関係、風の強さと物を持ち上げる力の関係を学習する。その発展として、3年生に凧揚げを位置づけてきた。しかし、児童数の減少に伴い、単学年だけの実施が難しくなり、全学年で凧揚げに取り組んできた。これまでは、個人で長方形の凧セットを組み立てたものを使用してきたが、28年度からは、もっと風をうける感覚、上昇気流を捉えることを意識し、連凧あげに挑戦することにした。幸い、種差海岸で連凧あげをしている団体(日本の凧の会)から、児童でも製作可能な連凧セットを購入できることになった。さらに、連凧づくり、連凧あげを指導してくれることになった。このような条件整備ができたので、全校児童による連凧あげを単元として設定することにした。

2 単元目標

- ① 5枚の連凧をつくることができる。
- ② 絵や文字をかいた5枚の連凧をひもでつなげることができる。
- ③ 風向きを考え、5枚の連凧を校庭であげることができる。
- ④ 5×〇枚の連凧あげを通して、風の力で△枚の凧の重さをあげることができることを理解できる。

3 単元の評価基準

- ア：竹ひごとポリたこのつなぎ方が理解できたか。
 イ：1m間隔に5枚の凧を金具でつなげることができたか。
 ウ：山側からの西風、海側からの東風の向きを考え、5枚あげることができたか。
 エ：5×〇枚の連凧を引いて、その重さを体感することができたか。(風がものを持ち上げる力)

4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1	○連凧セット(一人ポリ製凧5枚)を組み立てよう ・竹ひご4本(L1、M2、S1)をプラスチック連結器に入れ、ひごとポリ製たこをセロテープではりつける。 ・たこに絵や文字をかく。	・竹ひご連結器にしっかり入れさせる。 ・セロテープの位置確認 ・最後に、足を貼り付ける。
1	○5枚のたこを専用のたこ紐で連結させよう。 ・1m間隔でつなげていく。 ○校庭であげる練習をしよう	・1mごとにズレ止めの金具を取り付ける。(ペンチ使用)
2	○種差海岸天然芝生地へ行き、海風をうけて、連凧をあげよう。 ・まずは、一人で5枚の連凧あげ ・最後に、全校児童(5×〇=△)	・5×〇=△、△枚をあらかじめ金具で連結させておく。 ・5枚ずつあげていく。 ・専用のたこ糸を使用する。 ・風向きや風の強さと凧のあが方の関係、風がものを持ち上げる力を体感させる。
	○発展として 日本の凧の会の方々と交流しよう。	・9月3日、4日、種差海岸芝生地で凧あげ大会に参加(児童任意参加)
外部連携 / 教材等 日本の凧の会(連凧5枚セット)、民宿石橋(連凧づくりの指導、連絡調整役)		